



只見町ブナセンター通信

Vol.16



只見町ブナセンター

TEL 0241 (72) 8355

生き物が豊かな田んぼで 只見の農業を高付加価値化し、 田園風景を未来へつなぐ！



只見の田んぼのある風景を
次世代に繋いでいくための活動です



福島大学やアクアマリンふくしまの
協力を得て生物調査を実施

令和7年11月、只見町と合同会社ねっかは、地域の文化・自然・産業を守り育み、次世代へと紡ぐ持続可能な地域づくりを目的とした包括連携協定を締結しました。この協定による具体的なアクションとして、令和8年度より只見町産米を原料とする「ねっか」の製造と田んぼの環境保全を結びつけ、生物多様性と地域循環を可視化するため、深沢地区などの田んぼをフィールドに生き物調査を開始しました。

多くの生き物が田んぼやその周辺にいることは、その田んぼで生産されるお米やその加工品は私たちの口に入っても安心・安全な食べ物であるという証明につながります。また、そのこと自体が商品の価値を高めてくれます。田んぼの畔の草の除去に農薬を使わず、手刈りで行うなどの農家さんたちの日々の努力もあり、只見の田んぼには多くの生き物がいるようです。田んぼにどんな生き物がどのくらいいるかを調査し、その実態を科学的に明らかにし、只見のお米や加工品の付加価値を高められるようにしたいと考えています。田んぼに多くの生き物がいる→只見のお米が自然と人に優しいお米としてのブランド価値が高まる→農家さんたちの収入につながる→田んぼの生き物を大切にする農業が進む→人と自然が共生する只見町のブランド化が進む→只見の田園風景が引き継がれていく。このようなストーリーが描けないかと期待しています。

只見町ブナセンターからのお知らせ

企画展「アリからクマまで－タネをまく動物」

期間：4月4日(土)～11月30日(月) 場所：ただみ・ブナと川のミュージアム

内容：自ら動くことができない植物は、動物の力を借りてタネを遠くに移動させ、子孫を残してきました。本企画展では、その仕組みなどについて、全国の研究者が解説します。また、大人から子供まで楽しく理解できるよう工夫をしましたので、ぜひ見学にお越しください。

※この広報紙は再生紙を使用しています

※環境にやさしい大豆油インキを使用しています